

NEWS LETTER

Institute of Social Safety Science

地域安全学会ニューズレター No. 66

—目次—

- | | |
|---|---|
| 1. 第 23 回地域安全学会研究発表会（秋季）報告 | 1 |
| 2. 2009 年度総会・第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）・
公開シンポジウム等開催のお知らせ | 3 |
| 3. 地域安全学会役員改選について | 5 |
| 4. 安全工学シンポジウム 2009 の講演募集 | 9 |



地域安全学会ニューズレター
ISSS News Letter

No. 66

2009. 2

1. 第 23 回地域安全学会研究発表会（秋季）報告

第 23 回（2008 年度）地域安全学会研究発表会が、2008 年 11 月 13 日（木）～11 月 15 日（土）の 3 日間、静岡県地震防災センターにおいて開催され、査読論文の発表の他、一般論文ではポスター発表が実施されました。また、論文賞ならびに論文奨励賞の審査の結果、論文賞 1 編、論文奨励賞 2 編が選考されました。

論文の発表概要は学会のホームページに収録しましたのでご覧ください。

ここでは、論文賞ならびに論文奨励賞の審査結果について報告します。

全面的なご協力をいただいた静岡県総務部防災局、ならびに（財）静岡総合研究機構防災情報研究所に深く感謝します。

第 10 回論文賞・論文奨励賞審査報告

地域安全学会 学術委員会

今年で 10 回目となった査読論文の募集に対し、計 96 編の論文が投稿され、査読者および学術委員会による厳正な審査の結果、63 編の論文が登載可と判定された。この査読論文を掲載した地域安全学会論文集 No.10 が 2008 年 11 月に発行され、11 月 13～15 日に開催された第 23 回地域安全学会研究発表会において査読論文の発表が行われた。

査読論文発表の終了後、地域安全学会論文賞および論文奨励賞の審査が行われた。ここでは、その審査要領と審査結果について報告する。

■平成 20 年度「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会論文奨励賞」の審査要領

1. 受賞対象者

- (1) 「地域安全学会論文集」に掲載された論文の著者で地域安全学会会員を対象とする。
- (2) 「地域安全学会論文賞」の受賞対象者は原則として筆頭著者および共著者全員とする。
- (3) 「地域安全学会論文奨励賞」の受賞対象者は筆頭著者であり、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある者とする。ただし、再受賞は原則として認めない。

2. 審査方法

- (1) 学術委員会委員全員、および学術委員長が委託する若干名から構成される審査会が研究発表会において審査を行なう。
- (2) 審査は、当該論文の新規性、有用性、完成度、および研究発表会当日の発表、質疑への応答を評価の対象として、これを行なう。
- (3) 審査の実施細目は別途定める。

3. 表彰

- (1) 賞は「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会論文奨励賞」と称する。
- (2) 「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会論文奨励賞」の表彰は、賞状並びに記念メダルを贈り、これを行なう。
- (3) 表彰は選考された次年度の総会で行なう。

■審査概況

1. 審査会

平成20年度の審査は、12名の学術委員と、学術委員長が委託した2名の地域安全学会理事（山崎会長、宮野副会長）で構成される審査会が、63編の査読論文に対して行われた。

2. 審査方法

審査対象論文の共著者である審査委員は、当該論文の審査から除外し、審査委員は除外された論文以外の全ての論文に対して審査を行なった。各審査委員は、「地域安全学会論文賞」候補については0～2件程度、「地域安全学会論文奨励賞」候補については3件程度を選出し、審査会において両賞の候補について審議し受賞対象者を決定した。

■審査結果

1. 地域安全学会論文賞

審査会における審議の結果、以下の1編の論文が選出された。

- ・「脆弱性指数を用いたライフライン網の地震時脆弱性評価 ～上水道配水管網への適用～」
能島暢呂（岐阜大学工学部社会基盤工学科）

2. 地域安全学会論文奨励賞

審査会における審議の結果、以下の2編の論文の筆頭著者が選出された。

- ・「対策間の相互作用を考慮した防災対策行動予測モデルの提案」
廣井 悠（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻）
- ・「被災者基本台帳に基づいた一元的な被災者生活再建支援の実現 —2007年新潟県中越沖地震災害における“柏崎市被災者生活再建支援台帳システム”の構築—」
井ノ口宗成（新潟大学災害復興科学センター）

2. 2009 年度総会・第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）・ 公開シンポジウム等開催のお知らせ

◆伊勢湾台風から 50 年を迎えて：これまでの防災とこれからの防災（仮）◆

三重県桑名市長島町で 2009 年度地域安全学会総会および公開シンポジウム等を開催します。今年度も総会にあわせて、第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）〈一般論文発表会〉を行いますので積極的な投稿をお願いします。

投稿に当たっては、次のページに掲載した「春の一般論文募集のご案内（投稿要領）」をご覧ください。

■ 第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）および総会

場所：桑名市長島防災コミュニティーセンター

○第 22 回地域安全学会研究発表会（春季）〈一般論文発表会〉

日時：2009 年 6 月 5 日（金）13：00～16：00

○総会

日時：2009 年 6 月 5 日（金）16：00～17：00

■ 懇親会

場所：桑名シティーホテル

日時：2008 年 6 月 5 日（金）18：30～20：30

■ 公開シンポジウム

「伊勢湾台風から 50 年を迎えて：これまでの防災とこれからの防災（仮）」

場所：桑名市長島防災コミュニティーセンター

日時：2009 年 6 月 6 日（土）9：30～12：00

コーディネーター：目黒公郎（東京大学）

基調講演：安田孝志（岐阜大学工学部）、河田恵昭（京都大学防災研究所）

パネリスト：不破九二生（元輪中の館館長）、安田孝志、河田恵昭他

■ 現地見学会

見学場所：伊勢湾台風からの復興と 0 m 地帯での防災対策 等

日時：2009 年 6 月 6 日（土）12：30～16：30

※ 総会への出欠は、次号（4 月頃）のニューズレター送付時に同封する返信用葉書でご回答ください。

※ 上記の時間は一般論文発表数により多少の変更があるかもしれません。

■ 参加費

参加費 無料

梗概集 4,000 円

懇親会 社会人 6,000 円（予定）

学生 2,000 円

■ 宿泊について

桑名市駅近辺にはホテル等が、多数ありますので、各自ご予約ください。

春の一般論文募集のご案内（投稿要領）

地域安全学会 総会および春の研究発表会実行委員会

第 22 回春の地域安全学会研究発表会を下記の通り開催いたします。ただし、発表形式は口頭発表のみとし、ポスター発表は受け付けませんのでご注意ください。会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

I. 開催日時・場所

- (1) 日時：平成 21 年 6 月 5 日（金）
- (2) 場所：三重県 桑名市

II. 投稿方法

論文を投稿するには、郵送・宅配による本文の送付に加えて、Eメールによる事前登録を行っていただく必要があります。発表形式は「口頭発表」のみです。投稿規定についてはホームページをご参照ください。

II-1. Eメールによる登録

- (1) 登録期限：平成 21 年 4 月 9 日（木）
- (2) 宛先：paper_iss@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp
- (3) 登録内容、書式：
1 行目 「地域安全学会一般論文登録」と入力してください。
2 行目 論文題目
3 行目 筆頭著者氏名
4 行目 筆頭著者所属
5 行目 筆頭著者連絡先住所（郵便番号も）
6 行目 筆頭著者Eメールアドレス
7 行目 筆頭著者電話番号
8 行目 筆頭著者ファックス番号
9 行目 発表分野：A～Gのうち一つを選んで記入
A. 被害予測と緊急対応 B. 被災者の自立と社会的支援
C. 防災計画と対策 D. 都市施設の防災性向上と許容リスク
E. 突発災害・事故 F. 一般セッション
10 行目 請求書等が必要な場合のあて先
10 行目以降 連名著者がいない場合は論文概要（250 字以内）、いる場合はその氏名、所属を 1 行に 1 名ずつ記入、
改行後、論文概要（250 字以内）
注）発表者がわかるように氏名に○をつけてください。
- (4) その他：
(a) 登録時の論文概要を発表会プログラムと共に、学会ホームページに掲載する。

- (b) 発表は一人一論文のみ

II-2. 本文の送付

- (1) 送付期限：平成 21 年 5 月 1 日（金）（消印有効）
- (2) 論文形式：
(a) 本ニュースレターに掲載している投稿形式参照。
なお、当学会のホームページ（www.iss.info）に掲載の MS-Word テンプレートをダウンロードの上、利用可能。
(b) A4 版偶数ページ（4 ページ以内）。そのまま白黒（カラー原稿含）オフセット印刷するため、鮮明な原稿のこと
- (3) 送付先
(a) すべて郵送もしくは宅配のみ
（FAX および E-mail での投稿は不可）
(b) 宛先：〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄
京都大学防災研究所巨大災害研究センター
地域安全学会春期大会論文係 宛
表面に「地域安全学会 春の一般論文在中」と朱書きしてください。

III. 投稿料の納入

- (1) 投稿料：2,500 円／1 ページ
（2 ページ：5,000 円、4 ページ：10,000 円）
- (2) 投稿料の納入方法
① 期限：平成 21 年 5 月 1 日（金）までに②宛てに振り込んでください。
② 振込先：
みずほ銀行 丸の内中央支店（店番号 100）
普通預金
口座名：地域安全学会 一般論文口座
口座番号：1 9 3 7 2 8 2
振込者名：筆頭著者氏名
③ その他：振り込み通知書のコピーを、送付する本文に同封してください。

3. 地域安全学会役員改選について

会員各位

2009年1月30日
地域安全学会選挙管理委員会
委員長 佐土原 聡

2009年度地域安全学会役員改選について（通知）

地域安全学会役員選挙規定にもとづき、ニュースレター No. 65（2008年10月）にてお知らせしたとおり次期役員の立候補を受け付けたところ、別紙のとおり候補者の届出がありました。選挙告知で通知したように、次期役員の所定数は、理事12名以内、監事1名です。

今回は候補者が所定数以内のため、地域安全学会役員選挙規定第12条の定めにより、候補者全員を無投票当選とし、2009年度総会において選任することとします。

役員選挙規定（2006年5月20日 改正）は以下の通りです。

以上

地域安全学会役員選挙規定

（総則）

第1条 この規約は地域安全学会（以下本会という）の役員（理事、監事）の選挙に適用する。

（選挙管理委員会）

第2条 この規定による選挙は、本会選挙管理委員会規程に定める「選挙管理委員会」が、これを管理する。

（選挙権、被選挙権）

第3条 投票締切日の前月1日から引き続き投票締切日まで正会員（正会員とは、学生会員、賛助会員以外の会員を言う）である者は、当該する役員選挙の選挙権、被選挙権を有する。

（選挙役員の所定数）

第4条 理事会は、会則に基づき、次期役員のうち選挙対象の役員の所定数を確認し、選挙管理委員会に通知する。

（役員選挙の通知）

第5条 選挙管理委員会は、候補者届出開始日とその締切日、投票開始日とその締切日を定め、次期役員の所定数を合わせ、正会員に事前に通知しなければならない。

(候補者)

第6条 役員に立候補する者は、3名以上の正会員よりなる推薦人の名簿と推薦理由を添えて、選挙管理委員会に届け出ることとする。

第7条 候補者の届出が、指定した期日までに行われない場合、もしくは候補者が所定数に満たない場合は、理事会は速やかに候補者を選定するものとする。

(候補者および有権者名簿)

第8条 選挙管理委員会は、候補者の届出終了後速やかに候補者名簿および有権者名簿を作成する。名簿は、投票開始日時から投票締切日まで本会事務局に備え付け、会員の閲覧に供する。候補者名簿には、候補者氏名、推薦人氏名、候補者の立候補理由または推薦人の推薦理由を記載する。

(投票および開票)

第9条 選挙は、候補者名簿に記載された候補者に対する無記名投票によって行い、第4条に定められた所定数までの連記とする。

第10条 投票用紙と郵送用封筒は、選挙管理委員会が正会員に郵送する。投票は、所定の投票用紙を所定の封筒に入れ、指定された投票先に、別に定める日時までに郵送により行う。この時、所定の封筒には有権者の氏名を自署する。

第11条 選挙管理委員会は、投票終了後速やかに開票を行う。

第12条 候補者が所定数に満たない又は同数の場合には、候補者全員を無投票当選とする。

(有効および無効票の判定)

第13条 以下の投票は、無効とする。

- (1) 正規の投票用紙および封筒を用いないもの。
- (2) 郵送用の封筒に、有権者の氏名が記載されていないもの。
- (3) 郵送用の封筒に、複数枚の投票用紙が封入されているもの。
- (4) 規定の数を超えて候補者名を記載したもの。

(当選者の決定)

第14条 有効投票数の多い者から、順次所定数に充つるまで当選者とする。

2 有効投票数が同数の場合は、年齢の若い候補者から順次当選者とする。

(選挙結果の通知)

第15条 選挙管理委員会は、開票終了後速やかに会員に選挙結果を通知する。

(その他)

第16条 役員選挙に関し本規定に定めがないことについて問題が生じた場合には、会長が専決し処理に当たる。なお、会長は直近の理事会において専決処理事項を報告し、承認を得るものとする。

付則

- 1 この規定は、2005年5月13日から施行する。
- 2 この規定の改廃は総会の議を経なければならない。

(2006年5月20日 改正)

2009 年度地域安全学会役員選挙候補者

候補者氏名 (五十音順)	推薦者	推薦理由
(理事)		
池田浩敬	2008 年度 理事会	氏は、これまで学術委員会活動やニュースレターの編集発行など、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
岩田孝仁	2008 年度 理事会	氏は、これまで秋季研究発表会の運営など、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
加藤孝明	2008 年度 理事会	氏は、これまで学術委員として、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
清野純史	2008 年度 理事会	氏は、これまで学術委員長として、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
重川希志依	2008 年度 理事会	氏は、これまで副会長の重責や学会の人材育成、国土形成ビジョン提言など、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
庄司 学	2008 年度 理事会	氏は、これまで学術委員として、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
立木茂雄	2008 年度 理事会	氏は、これまで国際都市防災会議の連携調整など、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
能島暢呂	2008 年度 理事会	氏は、これまで学術委員長として、学会の学術活動の推進に大きく貢献してきました。これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
村尾 修	2008 年度 理事会	氏は、これまで表彰委員長、学会ホームページの運営や広報活動など、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
目黒公郎	2008 年度 理事会	氏は、これまで学術委員会活動や研究発表会運営など、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
矢代晴実	2008 年度 理事会	氏は、これまで総会の運営や学会の調査企画など、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
山崎文雄	2008 年度 理事会	氏は、これまで会長の重責や 20 周年記念事業の推進、日本学術会議の安全工学シンポジウム等で当学会の活動を広く紹介するなど、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。
(監事)		
翠川三郎	2008 年度 理事会	氏は、これまで会長の重責や国内外の学術団体との連携など、学会運営に大きく貢献してきました。引き続き、これまでの経験を学会運営に活かしていただきたく、来期の理事として推薦します。

(理事 12 名、監事 1 名)

2008 年度地域安全学会役員

2009.1.24 現在

会 長	山崎 文雄*	千葉大学 大学院工学研究科	理事会・総会担当
副会長	重川 希志依*	富士常葉大学 大学院環境防災研究科	経理担当, 安全工学シンポジウム担当
副会長	宮野 道雄	大阪市立大学 大学院生活科学研究科	会員担当, 公益法人化担当
理 事	池田 浩敬*	富士常葉大学 大学院環境防災研究科	学術委員会 (副)
理 事	糸井川 栄一	筑波大学 大学院システム情報工学研究科	研究運営委員会 (正)
理 事	岩田 孝仁*	静岡県防災局	秋季研究発表会 (副・会場)
理 事	大西 一嘉	神戸大学 大学院工学研究科	広報委員会 (HP 担当)
理 事	岡田 成幸	名古屋工業大学大学院 社会工学	選挙管理委員会 (副)
理 事	清野 純史*	京都大学 大学院工学研究科	
理 事	佐土原 聡	横浜国立大学大学院 環境情報研究院	国際交流担当, 選挙管理委員会 (正)
理 事	塩野 計司	長岡工業高等専門学校 環境都市工学科	広報委員会 (正, ニュースレター担当)
理 事	高梨 成子	榊防災&情報研究所	広報委員会 (副, HP 担当)
理 事	立木 茂雄*	同志社大学 社会学部	国際交流担当
理 事	田中 聡	富士常葉大学 大学院環境防災研究科	秋季研究発表会 (正・梗概集)
理 事	中林 一樹	首都大学東京 大学院都市科学研究科	研究運営委員会 (副)
理 事	能島 暢呂*	岐阜大学工学部	学術委員会 (正)
理 事	牧 紀男	京都大学防災研究所 巨大災害研究センター	春季発表会実行委員会 (副)
理 事	翠川 三郎*	東京工業大学 大学院総合理工学研究科	
理 事	南 慎一	北海道立北方建築総合研究所	
理 事	村尾 修*	筑波大学 大学院システム情報工学研究科	表彰委員会 (正)
理 事	村上 ひとみ	山口大学 大学院理工学研究科	企画研究小委員会#1 (正)
理 事	目黒 公郎*	東京大学 生産技術研究所	表彰委員会 (副), 春季発表会実行委員会 (正)
理 事	森 伸一郎	愛媛大学 工学部環境建設工学科	
理 事	矢代 晴実*	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社	
理 事	大江 秀敏	東京消防庁 防災部	充職, 2008 年度新任
理 事	飯島 義雄	総務省消防庁 防災課	充職, 2008 年度新任
理 事	柳生 勇	国土交通省都市・地域整備局 まちづくり推進課 都市防災対策室	充職, 2008 年度新任
理 事	五十嵐 崇博	国土交通省河川局 防災課災害対策室	充職, 2008 年度新任
理 事	池内 幸司	内閣府 参事官(地震・火山対策担当)	充職
監 事	井野 盛夫	富士常葉大学 環境防災学部	
監 事	室崎 益輝*	関西学院大学 総合政策学部	

* は 2008 年度末に改選予定の理事・監事

顧 問

伊藤 滋	小川 雄二郎	梶 秀樹	片山 恒雄	亀田 弘行
熊谷 良雄	高野 公男	長能 正武	濱田 政則	林 春男 [#]
村上 處直	村上 雅也	宮本 英治 [#]	吉井 博明	

は 2008 年度新規選出

4. 安全工学シンポジウム 2009 の講演募集

安全工学シンポジウム 2009 講演募集要項

主催：日本学術会議総合工学委員会

幹事学会：日本人間工学会

テーマ：安全を培う知のシナジー

共 催

安全工学会	化学工学会	火薬学会	計測自動制御学会
自動車技術会	静電気学会	地域安全学会	電気学会
電気化学会	電気設備学会	電子情報通信学会	土木学会
日本化学会	日本火災学会	日本機械学会	日本技術士会
日本経営工学会	日本計算工学会	日本原子力学会	日本建築学会
日本高圧力技術協会	日本航空宇宙学会	日本材料学会	日本シミュレーション学会
日本信頼性学会	日本心理学会	日本船舶海洋工学会	日本素材物性学会
日本鉄鋼協会	日本燃焼学会	日本非破壊検査協会	日本プラントメンテナンス協会
日本溶接協会	日本流体力学会	日本冷凍空調学会	粉体粉末冶金協会
溶接学会	日本人間工学会		

開催日：2009年7月9日(木)、10日(金)の2日間

会場：機械振興会館 地下2階ホール、地下3階会議室・研修室

(東京都港区芝公園 3-5-8 電話 03-3434-8211)

【交通】東京メトロ日比谷線「神谷町」下車徒歩6分

都営地下鉄三田線「御成門」下車徒歩8分

【地図】<http://www.jspmi.or.jp/kaikan.htm>

講演申込締切：2009年4月30日(木)

－ 講演申込要項 －

1. 講演募集部門

- ① 事故、災害に関する安全の概念
- ② 安全と人間性、社会特性（ヒューマンファクターを含む）
- ③ システムの安全性と信頼性（リスクアナリシス、セーフティアセスメントを含む）
- ④ 事故防止に関する検査・診断技術
- ⑤ 安全制御技術（ロボット、自動化システムを含む）
- ⑥ 建設に関する安全性と信頼性（計画、設計、施工、施工管理など）
- ⑦ 電気、電子および情報に関する安全性と信頼性（コンピュータ関連システム、セキュリティを含む）
- ⑧ 機械に関する安全性と信頼性（非破壊検査、構造健全性、寿命予測を含む）
- ⑨ 交通に関する安全性と信頼性（航空、宇宙、船舶、車両、道路など）
- ⑩ 燃焼、火災、爆発に関する安全性
- ⑪ 有害物質、環境に関する安全性
- ⑫ 地震と安全
- ⑬ 都市計画と安全

- ⑭ 災害と救急医療
- ⑮ 安全と危険予知
- ⑯ 製品と安全、P Lの実証
- ⑰ 医療・福祉に関する安全
- ⑱ その他の安全性に関する科学（理学、薬学、農学、医学などとの境界分野を含む）、技術、教育、国際基準など

2. 講演発表時間

1題につき20分（講演15分、討論5分）。なお、原則としてPCプロジェクターを使用します。

3. 一般プログラムの採否とプログラム編成

講演は既発表のものでも、新たに纏めたものであれば申し込みを認めます。講演の採否は、本シンポジウム実行委員会にご一任願います。なお、本シンポジウムでは、一般発表と別に、適当なトピックスを選んでオーガナイズドセッション(OS)を設ける予定です。一般プログラム応募講演のうちOSテーマの内容と合致する論文は、オーガナイザーの判断によりそのOSに組み入れる場合があります。

4. 講演申込み方法

講演希望者は以下の項目を明記の上、安全工学シンポジウム2009事務局宛て、Emailにてお申し込み下さい。

- ①講演希望部門（前記の1.項による）
- ②講演題目（後で変更のないように留意ください）
- ③講演者氏名（当日の講演者を筆頭にしてください）
- ④所属学協会ならびに会員資格（1名以上が共催学協会の会員であること）
- ⑤勤務先
- ⑥連絡者住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス
- ⑦講演概要（200字以内にまとめて書いてください）

5. 講演予稿集原稿の提出

- ①原稿枚数2頁または4頁で日本語または英語にて作成提出してください。原稿のひな形はホームページ上にありますのでご利用下さい。ひな形を用いない場合はホームページ上に掲載されている執筆要領に基づいて作成してください。なお、原稿はWordファイルまたはPDFファイルで、事務局宛てEmailにて提出してください。
- ②原稿締切日：2009年5月29日（金）

6. 参加自由（無料）

7. 講演予稿集は予価 1部5,000円。但し、学生は1部 2,000円で配布します

8. 講演申込みおよび原稿提出先

安全工学シンポジウム2009事務局

〒275-8575 習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部鳥居塚研究室 鳥居塚 崇

安全工学シンポジウム事務局Email： safety2009@ergonomics.jp

URL： <http://www.ergonomics.jp/safety2009>



地域安全学会ニューズレター
第 66 号 2009 年 2 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局
〒100-6307 東京都千代田区丸の内 2-4-1
丸の内ビルディング 7 階 725
(財) 都市防災研究所内
e-mail : iss2008@iss.info
URL : www.iss.info

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ（www.iss.info）をご覧ください。